

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

南相木村

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	木資源活用推進事業
事業費 532,660 円 (うち支援金:		532,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

本村の人工林は、偏った年齢構成のまま成熟期を迎え、計画的な更新により森林資源の持続的安定供給が可能な森林造成と森林資源の有効活用が課題となっている。

(2) 本事業の目的

県産材を使用した木製品を多くの人々の目に付きやすい公共施設に設置し、県産材の更なる活用普及を図る。

事業内容

(1) 実施場所 南相木村 字川俣 不戦の像周辺

(2) 対象者 地域住民及び来村観光客

(3) 実施方法 多くの人々が訪れる不戦の像の周辺に県産材を使用した手すりを設置(改修)する。地域住民や来村者に直に触れてもらい、県産材の活用について解説パネル等で理解を深める。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30 ~ 令和 4 年度)

県産材で製作した木製品設置 20 基

②令和 3 年度計画

ー南相木村 字川俣 不戦の像周辺 木製手すり改修ー

村の入り口である字川俣には「別れの松」という二本横並びになった赤松があり、この場所は戦時中に兵役に出る者を家族が見送った、村民にとっては思い入れのある場所である。昭和 60 年に戦争の惨禍を繰り返すことの無いよう、当時見送った家族をかたどった不戦の像を建設し、平和への誓いを新たにした。現在は村外からもこの像を見に来る人も多くなってきており、村の名所の一つとなっている。令和 2 年度は県産材を使用したベンチを設置し、人々が集える場所とした。現場は土手が高く危険であるため手すりがあるが、老朽化が著しい。そこで、県産材を使用した手すりに改修し危険防止を図るとともに、県産材の普及を図っていく。



事業効果

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

木質製品を設置し、身近に感じていただくことで地域住民や来村者が木質製品に親しむことができ、村産材を活用した製品の需要の創出が期待できる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

村内公共施設に木質製品を増やすことで、村内で木を使うことが常用的となり、更に木質製品の波及効果が期待できる。これにより村内での木材需要の拡大につなげて行く。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

地域住民や来村者が多く利用する村内公共施設を木質化することで、多くの方が実際に木製品に触れ、解説パネル等を通じて事業について知ることができる。

事業評価と今後の取組

(1) 目標に対する成果の状況

平成30年度から令和4年度の全体計画は木製品の設置20基で、このうち平成30年度に6基、令和元年度に6基、令和2年度6基の木製ベンチの設置と本年度、木製手摺の改修を一か所行った。本年度は、名所の一つでもある不戦の像の木製手摺を改修したことにより地域住民に興味を持ってもらう事ができた。

(2) 課題

ウッドショックによる国産材の需要増加という追い風もあり地域住民が木質製品に興味を持ち親しんでもらう事ができた。地域住民に興味を示すことが出来たが、村外者に村産材の魅力を発信できるような事業を検討する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する
地域住民に興味を持ってもらう事が出来たため、来村者に興味を持ってもらうように検討する。

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない